

# 令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

## 水球競技戦評

期日：令和7年8月18日（月）  
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

10

帽子の色 白

帽子の色 青

富山北部第一

1 0

3	-	7
2	-	2
3	-	6
2	-	7
PSO		

金沢市立工業

2 2

審判1： 坂井 奎太

審判2： 城之下 智喜

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月18日（月）、山口県きらら博記念水泳プールにて熱戦が続いた。ゲーム10では、北信越のライバル同士である富山北部第一高等学校（白帽）と金沢市立工業高等学校（青帽）が対戦。予選を1位通過した金沢市立工業に挑む富山北部第一の意気込みも強く、会場は試合開始前から独特の緊張感に包まれていた。

第1ピリオドは互いの力がぶつかり合う立ち上がりとなった。富山北部第一は⑩森、⑧日尾が立て続けに得点を挙げ、チームを勢いづける。しかし金沢市立工業はすぐさま反撃し、⑧前田侑が得意のドライブから2連続得点を挙げて流れを引き寄せた。さらに⑩亀口や⑤中村が加点し、終盤には②松野が相手に囲まれながらも力強くシュートを決め、存在感を放った。初回から多彩な攻撃を展開した金沢市立工業が7-3と優位に立った。

第2ピリオドでは富山北部第一が意地を見せた。④上田、⑪荒木の得点で応戦し、GK①中園を中心に粘り強い守備を披露。金沢市立工業の猛攻を受けながらも集中したディフェンスで失点を最小限に抑えた。金沢市立工業も②松野や⑧前田侑が得点を重ねたが、このピリオドは互角の2-2。前半を終えてスコアは9-5と差はあるものの、富山北部第一の気迫が伝わる展開であった。

後半に入ると、再び金沢市立工業が主導権を握る。第3ピリオド序盤、②松野が豪快なミドルシュートを突き刺し、試合の流れを一気に掌握。その後も⑧前田侑が多彩なシュートを決め、ペナルティを誘発するなど攻撃をけん引した。⑦前田洸や⑤中村も確実に決め切り、ピリオドを通じて6得点を挙げる。一方、富山北部第一も⑨田屋のゴール前での粘りや⑪荒木の突破で3点を返し、最後まで闘志を示したが、点差は広がり12-8で最終ピリオドへ。

第4ピリオドは両校の意地と意地がぶつかり合う時間となった。富山北部第一は⑨田屋が力強いシュートを叩き込み、⑩森もチェンジアップシュートで会場を沸かせる。最後まで果敢に挑み続ける姿は、スコア以上の存在感を放った。しかし金沢市立工業の攻撃陣はその勢いを凌駕する力を見せる。②松野が再びミドルを突き刺し、⑧前田侑は冷静なルーブシュートやカウンターから得点を重ね、最終的にはこの試合で10点に到達する圧巻の活躍を披露。さらに⑥水浦や④角尾らも得点に絡み、層の厚さを印象づけた。試合は最終的に22-10で金沢市立工業が勝利を収めた。

試合全体を通して、金沢市立工業はプレスディフェンスからの速攻、そして個々のスキルの高さを武器に得点を積み上げた。特に②松野は世代を代表する選手と呼ぶにふさわしい存在感を示し、ゲーム全体の流れを掌握するプレーで観客を魅了した。攻守にわたって軸を担い、チームの勢いを決定づけたことは間違いない。

しかし、敗れた富山北部第一も大いに称えられるべきだろう。⑨田屋の力強いポストプレー、⑪荒木の突破力、GK①中園の好セーブはいずれも試合の見どころとなった。第2ピリオドを互角に戦い抜き、強豪相手に最後まで戦う姿勢は観客に感動を与えた。特にベンチからの声援や仲間を鼓舞する姿は、チーム一丸となって挑む高校生らしさを体現していたといえる。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原